

# 大垣市 農業委員会だより

第14号

平成31年1月1日 発行

編集/発行 大垣市農業委員会  
(大垣市丸の内2丁目29番地)  
☎ 0584-81-4111 (内線532)  
☎ 0584-47-8614 (直通)  
Fax 0584-81-4899

年頭のご挨拶

大垣市農業委員会

会長 岩井 豊太郎



新年、明けましておめでとうございます。  
皆さんご存知のとおり、「平成」

の時代も残り4か月となり、改元という時代の変わり目を目前とし、いつもの年とは違い、感慨深い思いで新春をお迎えのことと存じます。

さて、平成28年4月の「農業委員会等に関する法律」の改正を受け、農業委員会組織は農地利用の最適化を進める組織改革をはじめ、農地情報の収集・提供、そして、担い手の育成・確保に強力に取り組んできました。

政府は、2023年度までに担い手農家に8割の農地を集積する

目標を掲げ取り組んでいます。今のペースでは目標達成は厳しい状況であります。

今後、さらに集積・集約を進めるためには中山間地域など条件不利地域に対応したきめ細かな対策や、さらには、農業従事者の高齢化と後継者不足、人口減少が進行する中で、「今使われている農地を使えるうちに使える人に引き継いでいく」ため「守るべき農地」を明確にする取り組みが喫緊の課題となつてきています。

このため、農業委員会として、農地中間管理機構と連携した農地集積・集約化の取り組みを重点的に進める観点から、集落などの単

位で中心となる農家やリタイヤ予定の農家などを明確にするような「農地所有者・耕作者の農地利用等の意向把握」と「地域における話し合いの推進」に取り組んでいくことが必要であります。

本県が、独自の運動として、平成29年8月から取り組んでいます「新・ぎふ農業委員会活性化大作戦」も2年目を迎え、基本方針であります「農地利用の最適化を推進するために」の5項目の実践に向けて、本年は、さらに運動を進めなければならぬと思います。

引き続き、関係者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年も皆様方にとりまして、輝かしい年になることをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。



## 墨俣地区の紹介

大垣市農業委員

石原 幸一



墨俣地区は、揖斐川と長良川に挟まれた標高3〜5mの低湿地の農地約120haを有し、その大部分は稲作です。農業用水は長良川水系河川の汲み上げに頼っており、用排水併用の水路により、下流の安八町を経て揖斐川へ排水しています。

したがって、当地区の圃場は貴重な農産物栽培農地でありながら、近年の大型台風・集中豪雨時には遊水池となる重要な災害軽減施設としての機能も有しており、遊休農地化はこうした機能を阻害するため、適正な管理が必要です。

営農では、法人1社、認定農業者2名の他は小規模農家で専業農家はありません。農業従事者の高齢化が進む中、後継者がおらず、農業機

械の更新時に離農農家が発生し始めています。

こうした現状の中、「人・農地プラン」の見直しが重要であると痛感しており、アンケートの回答率が9割という関心の高さに応えられるよう、関係者の皆様との話し合いを重ね早急に進めたいと考えています。

また、毎年墨俣小5年生の農業体験を支援しています。自分たちが関わった米で作った「手作りおにぎり」を食した時の感動をしたためた文集に、将来「農業をやりたい」と夢を語る児童が毎年数名見受けられます。一人でも多くの子供達の夢を叶えるためにも、地域の話し合いを通して農業を次代につなげたいと思っています。

## 三城地区の紹介

大垣市農地利用最適化推進委員

三摩 隆英



三城地区は、大垣市の東部、揖斐川沿いに位置し、昔は三城村と呼ばれた水の豊富な地区で、見渡す限りの水田地帯でありました。

現在は、大垣の東玄関でもあるソフトピアジャパン、総合体育館などがあり、地区の約6割が市街化区域となっています。

地域内には営農組織がなく、近隣の営農組織に頼っています。本来であれば、安全安心で付加価値の高い近郊型の野菜づくりが理想ですが、担い手不足に加え、耕作が困難となる市街化区域の農地もあり、これからも農業者が減少することに歯止めがかからない状況となっています。

そうした中で、現在、地域の農業の将来を見据えた「人

・農地プラン」に取り組んでいます。農地利用最適化推進委員として、今後の農地利用等のアンケート結果による意向把握を行い、農地の集積・集約と担い手の育成、今後の農地保全を如何に維持すべきかについて、地域の話し合いを通して、地域の持続可能な農業の構築を目標に人・農地プラン見直しを進めていきたいと考えています。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



## 農業委員の任命について

農業委員の欠員（1名）にともない、農業委員の公募を行った結果、新しい農業委員が決まりました。

農地法の審議などの法令業務に加えて、農地などの利用の最適化（担い手への農地利用の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）の推進の業務にご尽力いただきます。

任期は他の委員と同じく来年7月19日までです。



廣瀬悦治農業委員（長松町）

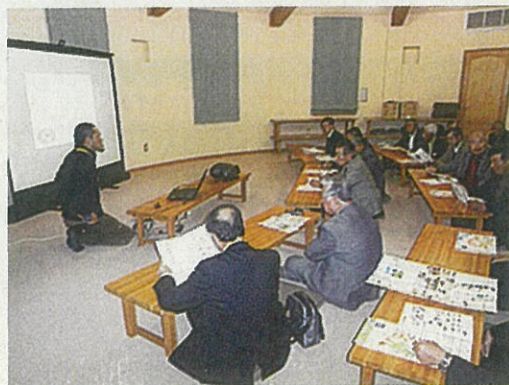
## 先進地視察研修

農業委員会は、11月27日（火）に伊賀市にある「伊賀の里モクモク手づくりファーム」の視察と伊賀市農林振興課の職員から伊賀市における「人・農地プラン」の取り組みについての研修会を実施しました。

「伊賀の里モクモク手づくりファーム」は、年間通じて「農業」と「食べ物」について楽しく学ぶことができる農業公園（食農学習施設）の運営にとどまらず、直営農場・地元との連携による農産物の生産、ハムやソーセージなどの食肉加工食品の製造、販売も行っており、6次産業として確立しています。

また、出店先の地元の農産物を使用した飲食店の運営など地産地消にも取り組んでおり、農業振興を通じて地域の活性化を行っている先進的な事例であります。

伊賀市における「人・農地プラン」の取り組みについては、東海農政局農地中間管理事業表彰事例としても紹介されており、今年度、「新・ぎふ農業委員会活性化大作戦」により「人・農地プラン」の積極的な取り組みを推奨している本委員会としては、地域活動の課題や運営方法について意見交換を行い、今後の活動の参考とすることができました。



〈伊賀の里モクモク手づくりファーム〉



〈伊賀市農林振興課による研修会〉

特産品紹介②

# カミツレ



大垣市の特産品として、カミツレがあります。本市における栽培面積と生産量は日本一と言われています。

カミツレは、ハーブとしてもおなじみのカモミールのことです。防虫菊を小型にしたような花形をしており、りんごのような甘い香りが特徴で、ハーブティーとしてだけではなく、石鹸や入浴剤などの原材料にもなっています。

大垣市の気候・土壌条件に適した薬草で、市内南部を中心に栽培されており、上石津地域でも獣害被害が少ない作物として栽培面積が拡大しています。

毎年、春にはカミツレまつりが開催され、収穫体験などイベントは、多くの方で賑わっています。



## 大垣市農地賃借料情報

平成30年1月から12月までに、農業経営基盤強化促進法に基づき利用権設定された賃借料及び農地法第3条許可により設定された賃貸借における賃借料水準は、次のとおりです。

〈水田の部/10a当たり〉

締結(公告)された地域名	平均額(円)	最高額(円)	最低額(円)	データ数
大垣地域	3,600	4,200	3,000	4
上石津地域	2,600	8,000	2,000	20
墨俣地域	4,600	5,000	4,000	17

※市街化区域は除く

老後の備えは万全ですか？

\\ メリットいっぱい! \\ 国が支える担い手積立年金

# 農業者年金に加入しよう!

加入要件

60歳未満

国民年金第1号被保険者

年間60日以上農業従事

3つの要件を満たせばどなたも加入できます!



※有利な国民年金の付加年金も併せて加入ください

【お問い合わせ・申込み 大垣市農業委員会・JA または 岐阜県農業会議 ☎058-268-2527】

みんなで築こう 人権の世紀 ~ 考えよう相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心 ~